藤岡ブロック（藤岡小学校・部屋小学校・赤麻小学校・三鴨小学校・藤岡中学校）　小中一貫教育だより

ふじおか

令和５年２月 発行

令和4年度 藤岡ブロック小中一貫教育を振り返って

藤岡ブロック小中一貫教育推進委員会委員長　鈴木 龍一

栃木市小中一貫教育第２ステージの最終年度を迎えた令和４年度でしたが、藤岡地区は４月に藤岡第一中学校と藤岡第二中学校とが統合し１つの中学校区となりました。これを機に、令和３年度までの小中一貫教育計画を見直し、新たな推進計画を作成し、７月に「小中一貫教育だより『ふじおか』」を発行し保護者並びに地域の皆様にご紹介いたしました。

コロナ禍による制限こそありましたが、感染状況が落ち着いている時は小中学校の全教職員が対面で、感染拡大時は代表者のみ対面で、他の教職員はオンラインで研修に参加する等、ＩＣＴの活用を図りながら小・中学校９年間を見据えた教育活動の充実を意識した研修に努めてまいりました。

昨年末の学校評価（中学校のみの結果）では、小中一貫教育の目標や取組について「よく知っている」「知っている」と回答された保護者の方は 59%に止まりました。まだまだ小中一貫教育の目標や取組について、保護者並びに地域の皆様に十分お伝えできていないと反省しております。この度、今年度の藤岡地区小中一貫教育の取組について、学習・児童生徒・健康安全の３点からまとめましたので、ご紹介いたします。

令和５年度からは第３ステージとなり、義務教育９年間を通して子どもたちがこれからの社会をたくましく生き抜いていく資質・能力を身に付けられるよう、一層充実させてまいりますので、保護者並びに地域の皆様には今後一層のご理解とご協力をお願いいたします。

令和４年度重点目標

知　自分の目標をもち、集団との関わりの中で伝え合い、学びを深め合う児童生徒の育成

◆ 主な実践内容 ◆

いろいろな教科で、友達同士で自分の考えや思いを伝え合う授業を行い、友達の意見やアドバイスを生かして、自分の考えを深めてきた。その結果、話し言葉だけでなく、実物を示したり、タブレットを活用して資料や写真を提示したりして、自分の考えを分かりやすく友達に表現する児童生徒も増えてきている。

また、自信をもって授業やテストに臨むことができるよう、いつどこをテストするかを示し、家庭学習に取り組むよう励ましてきたところ、それに向かって努力する児童生徒が増えた。自主学習ノート展の後には、興味をもって学習している内容や方法を児童生徒が互いに知ることができ、その後の家庭学習の参考にしていた。

◆ 成果と課題 ◆

〔成果〕「友達から学ぶことができた」、「家庭学習での取組を授業やテストに生かすことができた」と肯定的に捉えている児童生徒はどちらも８０％を超えている。

〔課題〕「友達から学ぶことがたくさんあった」とさらに肯定的に思えるように、児童生徒同士で学び合える授業を展開していく授業づくりを研究する必要がある。

部屋小学校　社会科の授業

藤岡中学校　数学科の授業

令和４年度重点目標

徳 多様性を認め合い、異なる意見や考えを尊重し、協働できる児童生徒の育成

◆ 主な実践内容 ◆

今年度は、学校行事や日々の学校生活において、互いのよさを認め合う場を意図的に設けた。例えば、小学校では、朝の会で「１分間スピーチ」をした児童に対して友達がよい所を伝える取組や、学校行事の中で見つけた友達のよい所を振り返る取組などを行った。また、中学校では、体育祭や学校祭などの行事で友達のよい所を書いて共有する取組を行った。

これらの各学校での取組を部会で情報共有しながら、それぞれの学校に持ち帰り、友達の意見やよさを認め合えるような場の工夫に努めた。

◆ 成果と課題 ◆

〔成果〕１学期と２学期に『楽しい学校生活を送るためのアンケート』を実施した。「あなたはクラスの人から認められることがありますか」という設問に対し、肯定的に回答した児童生徒が１学期に比べ２学期の方が増加し、１年間の取組が児童生徒の成長につながっていることを確認することができた。

〔課題〕「自分が認められている」と実感できない児童生徒がいることも確認できたため、次年度以降も各校の自己肯定感を高める取組等を情報共有しながら、藤岡ブロックの取組として推進していく。

赤麻小学校　運動会

藤岡中学校　合唱コンクール

令和４年度重点目標

体 健康・安全な生活習慣を身に付け、運動に親しむ児童生徒の育成

◆ 主な実践内容 ◆

長期休業後、生活リズムを整えるために『健康週間』を実施した。早寝早起きや朝食、意識して体を動かすこと等について毎日アンケートを実施し、児童生徒の実態を把握するとともに、児童生徒にも自分の生活リズムをふり返り、見直すきっかけとした。また、体育の授業では、児童生徒が目標を意識して運動に取り組めるよう学習カードを使って学習を進めた。中学校のように部活動がない小学校では、児童の運動への意欲を高めたり、運動量を確保するために、委員会の児童が中心となって『のぼり棒教室』や『なわとび教室』を開き、運動の楽しさを伝える活動を行った。

◆ 成果と課題 ◆

〔成果〕『健康週間』アンケートの「一週間、生活習慣を意識して取り組めたか。」という質問に対し、約 82％の児童生徒が肯定的な回答をし目標を上回った。また、体育の学習では、学習カードを使用し、多くの児童生徒が自分のめあてをもって体力づくりを行うことができた。

〔課題〕『健康週間』アンケートの結果から、十分な睡眠時間の確保や意識した運動ができた児童生徒の割合が低かった。また、体育的行事前には練習期間を設けることができたが、コロナ禍のため活動が制限されてしまったことがあり、活動内容の工夫が課題となった。

藤岡小学校　『のぼり棒教室』

三鴨小学校　『なわとび教室』